朱天心
『想我眷村的兄弟們』
にみる限定的な
『私たち』

赤松美和子

一はじめに
『古都』について

まさか、あなたの記憶が今何の意味もないなんて…。
これは、朱天心『古都』の導入部分である。
局書出版『金鼎獎』、『中國時報』十大好書、『聯合報』最佳書獎を受賞、第二十二回時報文學奨推薦も受賞した。

古都は、一九九七年菱田出版より『当代小説家』シリーズ第六冊として出版された。九七年度の行政院新聞

局刊行に日本でも清水賢一郎の訳により、二千〇〇年にも國書刊行会より『新しい台湾の文学シリーズ』の一冊として刊行

された。

主人公は中年男性の『あなた』であり、二人称語りの小説である。同名川端康成『古都』の双子の物語をモチ

プに、異国の京都と日本占領下の台北を双子の都市としても、京都の永遠性と台北の剝奪性を対比させ描いている。

こうした二面対立の構図が、『あなた』の記憶への問いかけにより次第に揺らがされていく。

この冒頭の「まさか、あなたの記憶が今何の意味もないなんて…。」
について、黄英哲は「いわゆる『大歴代』へ
の問いかけであり、『大叙述』をひっくり返そう」という意図もはっきり示されている。

朱天心『想我眷村的兄弟們』にみる限定的な『私たち』
あるのかなどと言明してはいない。『皇民精神』を注入れた日本政府の記憶なのか、『共抗の』を注入れして祖国大陸の山河を光復させるようとした国民政府の記憶か、それとも『愛台湾』を植え付けようとした本土論や政治権力を有する政府の記憶か、いったい何なのかとはいわないのだ。と指摘している。また誤者が清水賢一郎が『愛台湾』を指摘しているような、『愛台湾』は、新たな台湾本土化ナショナリズムの「大きな物語」に対抗する外省人第二世代という他者による抵抗というようである。自れと他者との二項対立関係を壊していくこのように、一方、黄英哲は『朱天心自身も自ら気付かないうちに、過去の記憶の栄光を守ろうとしている』と指摘し、また梅家玲が『古都』をこれまでの朱の創作における『集大成』であるとし、生まれ上げた都と闘うという意味を論する。年長者の戦争の記憶や郷愁のイメージを再現し、特定の族群文化を作るという続編の意味の、今日日本小説の国家イメージ問題について討議する際、最も注目すべきテキストである』と指摘した上で、更に『今日眷村小説の国家イメージと現実、の間での離散と移住こそ、サイードのいう『ディアスポラ』の特性のようにものを眷村作家に備えさせている。これらの眷村作家は『ダブルスペースクティブ』を経て互いに透照し、外観と自己に対するより深い観照と反省が可能になり、多面的な時代の変遷と国家の移り変わりの証人になった。と指摘しているようになる。
筆者は、朱天心の眷村出身の作家という特質が、「自己と他者の境界を断ち切らず、あるゆる時空間から自己と他者との二面対立関係を模索している」という「古都」のようなポストモダン小説を書く過程で見出しました。なぜなら、朱天心の作品の中で眷村小説を最も直接的に描いた『想我眷村的兄弟們』を理解する基礎として、眷村とは、「一九五六年から政府が建設、設置していった軍人家族を集住させた集合住宅区である。眷村は一九五六年まで、義軍に分けて建設が行われ、この年の全台湾の眷村居住帯数は四万七千二百五十八戸であり、家族毎に平均五年とすると、当時の外省人数の約四分の一、眷村に居住していたことになる」。家族每が平均五年とすると、当時の外省人数の約四分の一、眷村に居住していたことになる。朱天心は、一九五六年、台湾高雄県鳳山の眷村で生まれた。朱天心以外にも、甥の朱天心は、「九五六年、張大春は『九五六年』を始め、蘇偉貞（『九五四』）、袁瓊瓊（『九五〇』）、張啓疆（『九六一』）、苦苓（『九五五』）を始め、孫瓊英（『九五四』）など眷村出身の作家が多数発表されている。朱天心は、眷村作家と称され、総裁令解除前後に、眷村を描いた小説は『眷村小説』と呼ばれることがある。例えば朱天心は、『エデンはもうや』（『九八二』）第五回時報文学賞、張大春は『眷村小説』と呼ばれることがある。
喫煙に関する法律（九十九条）

「古都」の主人公は小説家であるが、朱天心作品の中で、真剣さに近く小説を描いたのが「想我眷村的兄弟們」

朱天心作品としてのみならず、この小説が「眷村小説」の代表的作品として位置づけられている。政治的な小説を次々と発表し、注目を集めている。夫は本省人（閩南系）である。十五歳の時、「梁小琪的天」でデビューした。その「想我眷村的兄弟們」の背後には、「台灣社會の本土化」という激しい地殻変動があったと考えられる。故郷の清滄は指摘している。

私に比較的大きな影響を与えたのは鄉土文学論争だろうと思います。今思いまますに、彼がしたのは文学ではなく、政治上の主張でした。ただ私たちは間に合いませんでした。ですが、この論戦は私の考え方に

【注】

【注】

【注】
呼び覚ました一と指摘しているように、この短編小説では、これまであまり描かれることがなかった消え行く眷村と眷村に暮らした人々を、物語の背景としてではなく中心として描いている。小説の前半は、眷村の生活と変遷、また眷村と眷村以外の人々の生活との違いが、語り手「私」に「彼女」と呼ばれる少女の浮かぶ切ない青春時代の思い出として、断片的に情緒的に描かれている。一方後半では、「少女」は「あなた」と呼び換えられる。「眷村の兄弟たちの足跡を探す」、彼らの実名を書き連ね、物語は終わる。

三人称「彼女」から二人称「あなた」へ

―想我眷村的兄弟們一は語り手「私」による一人称小説である。小説の前半は、語り手に「彼女」と呼ばれる少女の浮かぶ切ない青春時代の思い出として、断片的に情緒的に描かれている。一方後半では、「少女」は「あなた」と呼び換えられる。「眷村の兄弟たちの足跡を探す」、彼らの実名を書き連ね、物語は終わる。

小説はこうした少女の切なくも安全な思い出の物語として進んでいくのかも知れない。しかし、小説の半分以上が過ぎたところで次の段落を以って、思い出すセピア色の写真が現実のカラーの動画に変わるように、物語は攻
本省人の男と結婚し、生活の中に時折うまくいかないと感じる人も多い。例えば夫たちはどう
して記憶の中の外省人の男の子みたいに家事を分担してくれないのだろう、きっと日本植民地時代の亭主関白
の影響で違いないとか、選挙のたびに、彼女は仕方なく国民党の肩を持て夫と論争し、あやうく家内紛争に
なるところだったり、そのため時々、ああ、あの日の眷村の男の子たちはどこへ行ったのだろうかと。

眷村を、この土地を、何としてでも、どんなに離れないと思ったか忘れないで。

覚えるだろうか？あなたは…（中略）…を覚えているだろうか？（中略）

張謂謙は、眷村文学について「初期は個別の作家の幼いころの思い出に過ぎなかったが、またたくまに特定の族
群、外省人第二世代作家を指す」の政論文として発表し、正にこの段落内部において体験されたといえる。中でも最も注目すべきは、

あなたたちに指摘させるを得ないと解と同情の余り、あなたたちに指摘させるを得ないと解と同情の余り。

あなたたちに指摘させるを得ないと解と同情の余り、あなたたちはいつまでも「あなたたち」の一人、あなたたちの一人…

という一文に、三人称の「彼女」はいつまでも「あなたたち」の一人として呼び替えられ、

物語の最後まで「私」は「あなた」を呼び続ける。これまで遠い向こうにあった「彼女」の思い出は、ただ断片
的に語られるノスタルジックなものから、あなたたちに指摘させるを得ないと解と同情の余り、あなたたちに指摘させるを得ないと解と同情の余り。

あなたは…（中略）…を覚えているだろうか？（記不記得欧…（中略）…）と、忘れてはならない大切な記憶と
人称の問題について、謝恩磐は「決して作者は物語る技術が劣っているのではないか。読者は『朱天心』（私）の心の声だと分かっているから、彼女（あなた）であると『あなた』である」という、混同から作者の規格に際しては、混在して用いられているわけではなく、『彼女』と『あなた』は小説内において、拝啓としている。というのは、同じ人物を、ここにはいない三個人称に差し替えられる。また、二人は物語れるように、彼女（あなた）であると呼ぶべきと、同じ人物を、ここにはいない三個人称に差し替えられる。この小説には、国民、眷村を巡り、消化しきれない複雑な愛憎書き込まれている。それは、同じ人物を、ここにはいない三個人称に差し替えられる。なんに違いない、『あなた』と呼んだりするその揺れ、その変化を敢えて小説中に表しているところが重要なのだ。例え、呉亮雅が『語り手は国民党に対して愛憎矛盾に満ちており、一旦『他人』が国民党を批判すれば、逆に弁護しないでいたのである』と語っているが、それは、同じ人物を、ここにはいない三個人称に差し替えられる。この小説には、国民、眷村を巡り、消化しきれない複雑な愛憎書き込まれている。それは、同じ人物を、ここにはいない三個人称に差し替えられる。ようやく、心からの理だろう。そして同時に、その人たちが何の気兼ねもなく気が済むまで悪口を言えるのを心待ちしたのだ。
更に、「彼女」から「あなた」への呼び替えは、小説内に流れる時間にも影響を与えた。

あなたは…（中略）と呼びかけられる対象の「あなた」はここにいない。

彼女のアイデンティティを決定付ける。現在に繋がるものであることが露わされる。

小説は、次のように終わる。

みなさん始めよう。（中略）

---

五十八頁

（五十八頁）

---

朱天心「想我」「村的兄弟們」にみる限定的な「私たち」

---
ああ！

「私たち」から「私たち」へ

（二）「私たち」から「私たち」へ

（一）では、終焉部分を抜粋したが、語り手「私」が「彼女」を通して、眷村での思い出を描く前に、小説は、

張愛玲が「沈香屑，第一炉香」において香炉に沈香屑を焚くよう読者に求めたように、次のように始まる。
あなたにお願いがある。この小説を読む前に少し手ばかりの準備をしてほしい。（中略）
あなたに「スタンド・バイ・ミー」をかけてほしいのだ。そう、映画になったスティーブン・キングの同名小説（中略）
聞かないのはあなたの損だと言うと思う。では、協力者の読者のみなさんが始めよう「我々開始」。
小説の冒頭における「あなた」は読者への呼びかけであり、「皆さん（我々）始めよう」の「私たち」は、読者を
含む「私たち」である。しかし、「我々」で論じた「彼女」から「あなた」（我々）の書き換えにより、いつのまにか語り手
私と書村出身の少女「あなた」はあまりに接近し過ぎ、いつのまにか「私たち」の一人であったはずの読者の
入込める余地はなくなる。小説の終焉で、「皆さん（私たち）始めよう」と、読者は再び「私たち」の一人として
参加を求められる。しかし終焉部の最後において、「離れたい私たち二人は、夢の中で会いましょう。」（中略）

「私」は、これまで微妙な距離を持つ他者であった「彼女」から目の前に居る「あなた」と
呼びかけられていた書村出身の「あなた」に限定され、「我書村的兄弟々」に限定され、「我書村的兄弟々」
という集団的アイデンティティ（中略）

集団的アイデンティティを創出するため、「自己」と他者の境界を揺るがす自由なアイデンティティを作り上げた小説の前に、このように徹底的に
赤タマリ

朱天心「想我書村的兄弟々」にみる限定的な「私たち」
四 おわりに

朱天心「古都」はポストモダン小説として内外で高い評価を得たが、その前後期の作品として、想我春村の兄弟々を捉え分析した。小説では、とりわけ「想我春村の兄弟々」という集団的アイデンティティが、想我春村の兄弟々における人称の書き換えに注目し、個人的アイデンティティを考察した。

語り手は、物語の中間において、春村での生活を語る媒体である少女の呼称を「彼女」から「あなた」へと呼ぶ。著者が想我春村の兄弟々でない読者は置いていかれる。「私」の物語を書き、「私たち」の物語を読者に解読させるのではなく、小説において既に「私たち」という人称を、しかもこうした限定的な「私たち」の物語を著者に解読させるのではなく、言語の終焉において、語り手は「私たち」という呼称を多用する。その「私たち」の対象は、著者を含む関かれた「私たち」から「あなた」へと変わる。そして「春村的兄弟々」でない読者は置いていかれる。
接な集団を表現することへの欲望を看取できるのではないだろうか。

注

1. 黄英哲「歴史・記憶とディスクール」（朱天心「古都」読」）
2. 言語文化学會「古都」国書刊行会「○○○○年」三一〇頁。
3. 丘螢芬「想我放逐的兄弟（姐妹）们・閱讀第二代「外省」作家朱天心」「中外文学」（九〇年代台湾小説論）（岩波書店「○○○○五年」三一七頁、三一五頁）。
4. 本橋哲也「ポストコロニアル・帝國の遺産相続人として」（R・ヤング「ポストコロニアル・アリズム」（岩波書店「○○○○四年」三一〇頁）。
5. 黄英哲「歴史・記憶とディスクール」朱天心「古都」論「前揭」三四頁。
6. 梅家玲「九〇年代札村小説（家）的家国想像與書寫政治「前揭」一八二頁。
7. 第五号「學習院大學東洋文化研究所「○○○○三年三月」三一三頁。
8. 若林正丈「戰後台灣遷占者国家における「外省人」政治体制下の多重族群社会再編論・その一」「東洋文化研究」（岩波書店「○○○○九年九月三日アクセス」を参照した。）
9. 梅家玲「八九〇年代札村小説（家）的家国想像與書寫政治「前揭」一八四頁。
10. 藤様華「札村小説研究・以外省第二代作家為對象」（政治大學碩士論文）「一九九九年」三一九三三一九頁。及び「當代文學史料系統」https://includeचॅचॅ